

教皇の思い受け継ぐ

広島訪問1年で催し 非核へ誓い新た



ローマ教皇が昨年11月に発したメッセージを読み上げる白浜司教(右端)たち



ローマ教皇が平和記念公園で使用した燭台を見る生徒

中国わいど

このほかの写真はホームページ「中国新聞デジタル」に掲載しています。

ら分けた種火をろうそくにともし「全ての国の平和を願ひ、全ての国の平和を祈る」と斉唱した。

カトリック広島教区の白浜満司教(58)が教皇のメッセージを抜粋して読み「各国の指導者が対話と尊敬を持って平和を築きますように」と祈りをささげた。

ローマ教皇は昨年11月24日、広島、長崎を訪問。教皇の面被爆地訪問は38年ぶりだった。広島で発した約14分間のメッセージでは、核兵器の使用や保有を明確に否定し、人類史上初めて原爆が投下された広島が持つ惨禍の記憶を広げるよう訴えた。

平和記念公園では、カトリック信者やNPO法人が記念行事を開いた。約40人が集い、原爆慰霊碑前で黙とう。原爆ドーム前の親水テラスでは「平和の灯」か

国際署名集約へ最後の街頭活動

広島で被爆者団体などをつくる「ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会」は24日、広島市中区の元安橋で署名を集めた。年末に集約するため、最後の街頭活動となる。核兵器保有国や日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める声を高めようと、50人が市民や観光客に協力を呼び掛けた。

県被団協(坪井直理事長)の箕牧智之理事長代行(78)



署名への協力を呼び掛ける箕牧理事長代行(左端)、佐久間理事長(左から3人目)、松井市長(同4人目)たち

やもう一つの県被団協の佐久間邦彦理事長(76)たちが横断幕を掲げた。箕牧理事長代行は、来年1月22日の条約発効に触れ「運動が実りつつある。核兵器がなくなることを願ひ、行動を起こそう」と強調。松井一実市長も訪れ、条約を実効性あるものにする環境づくりが重要と訴えた。

新型コロナウイルスの影響で、街頭での署名活動は約1年ぶり。感染対策で参加者はフェイスシールドを着け、ボールペンは署名者に持ち帰ってもらった。大阪府枚方市から原爆資料館の見学に訪れた山口幸作さん(83)は「核兵器を禁じる条約に被爆国の日本が入らないのはおかしい」と署名に応じていた。

連絡会は、全ての国に核兵器の禁止・廃絶を迫る国際署名を県内で連携して集めるため2018年に結成。今年9月18日までに81万9450筆を集めた。署名は全国の連絡会が集約して国連に届ける。

ローマ教皇フランシスコが平和記念公園(広島市中区)を訪れてから24日で1年。市内では核兵器の非人道性を世界に訴えた教皇のメッセージを受け継ぎ、発信する催しがあった。被爆者や市民、教皇を迎えた教会関係者たちが参加し、核兵器廃絶への誓いを新たに

問当日の集会で、生徒約120人が会場案内のボランティアに参加したノートルダム清心中・高(西区)では、校内にある講堂前に、教皇が読み上げたメッセージ全文が張られた。

市が所有している、教皇が火をともしたろうそくの燭台や関係者に贈ったメダルも展示。平和活動の同好会「ピーステップ」に所属し、ボランティアも務めた

「原子力の戦争目的の使用は倫理に反します」。訪